

【下関市総合教育会議議事録】

平成30年度第1回下関市総合教育会議

開催日時	平成30年5月28日（月） 13:30～15:00
開催場所	市役所新館5階 大会議室
出席委員の氏名	前田 晋太郎（市長） 児玉 典彦（教育長） 小田 耕一（教育長職務代理者） 藤井 悦子（教育委員） 吉村 邦彦（教育委員） 伊東 まさ子（教育委員）
欠席委員の氏名	欠席なし
委員、関係者及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名	総合政策部長 植田 恵理子 産業振興部長 山本 卓広 産業振興部次長 日高 明彦 観光スポーツ文化部長 吉川 英俊 観光政策課長 崎西 正明 スポーツ振興課長 大賀 三千代 文化振興課長 高野 修一 教育委員会部長 萬松 佳行 教育委員会理事 野田 広志 教育委員会部次長 木下 満明 教育委員会参事 沖吉 洋一郎 教育政策課長 藤田 信夫 教育研修課長 三井 清 文化財保護課長 高森 俊明 美術館長 中村 美幸 歴史博物館長 町田 一仁
傍聴人の数	0人

次第（目次）

【開会の宣告】	P 3
【市長挨拶】	P 3
【教育長挨拶】	P 3
【協議・調整事項】	
(1) 明治維新150年の取組みについて	P 4
(2) 芸術・文化・スポーツに触れる機会の創出について	P 12
【その他】	P 17
【閉会の宣告】	P 17

【開会の宣告】

萬松佳行（教育部長）

皆さんこんにちは。それではただいまより、平成30年度第1回下関市総合教育会議を開催いたします。まず始めに、総合教育会議の主催者であります前田市長に開会のごあいさつをお願いいたします。

【市長挨拶】

前田市長

本日は、今年度第1回目の下関総合教育会議でございます。児玉教育長をはじめ、教育委員の皆様方には、平素から下関の未来を担う人材の育成に大変大きな御尽力をいただきまして、心から感謝を申し上げます。また今日は大変お忙しい中、出席いただきましてありがとうございます。さて、ちょうど1年目の総合教育会議におきましては、私の育への思い、そして願いについて述べさせていただきました。深い歴史、美しい自然や豊かな食文化のある素晴らしい街である下関に対する愛情や郷土への誇り、そしてその先にある家族愛、地域愛の大切さを伝えて行くという事を教育の柱にしていくべきではないかと。その下関の良さを幼い時にもっともっと伝えて行く必要が有るのではないかと。また、いじめに関しては絶対許してはならない。そして学力の向上、この3点につきましては、今現在も私の思いは変わりありませんし、この1年間たくさんの方々といろいろな話をさせて頂いた中で、市長としてまた一人の父親としても、その思いを強くしたところでございます。やはり教育行政を進めていくためには、教育委員会と意思の疎通を図りながら教育の課題やあるべき姿を共有していくことが大切であると改めて感じているところでございます。本日は2点協議をしましてまいります。いずれの内容も、市長部局と教育委員会が連携して進めていかなければならない事項でございますので、しっかりと議論できればと考えております。今後この総合教育会議の場におきまして、様々な教育課題等について皆様方と協議、調整を図り、子供達の教育環境の充実に努めていく所存でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

萬松佳行(教育部長)

ありがとうございました。続きまして教育委員会を代表して、児玉教育長にご挨拶をお願いいたします。

【教育長挨拶】

児玉教育長

それでは教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。教育委員会におきましては、夢への挑戦、生き抜く力、胸に誇りと志を抱くという教育理念を考えておりますが、今、もっとも大事なのは最後の部分、志ではないかと考えています。今まで夢の実現や個の抱負といった個人的な価値を追求する教育が行われていましたが、これからはそれと共に社会で対応繋いでいこうとする、そういう志を持った人間を育てなければならないのではと考えています。本日の協議調整事項であります。明治維新150年の取り組みについてと、芸術、文化、スポーツにふれる機会の創出についての2つであります。教育員会は毎日の問題の一つひとつを協議、調整しながら前田市長と教育委員会とが連携して教育行政の推進を図ってまいりたいと考えているところです。どうか前田市長におかれましては、本市の教育の発展に今後とも格別な御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げまして、本日の私の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

萬松佳行(教育部長)

ありがとうございました。それでは協議調整事項に入ります。

これより、議事の進行を前田市長をお願いいたします。

【協議・調整事項】

(1) 明治維新150年の取り組みについて

前田晋太郎（市長）

それではよろしく願いいたします。それでは協議調整事項「(1) 明治維新150年の取組について」に入ります。今年度は明治改元から150年という大きな節目です。維新発祥の地である本市としましては、様々なイベントを通して、改めて下関市の歴史や史跡に触れることは、子供達をはじめ市民の郷土愛の醸成のためには絶好の機会であると考えています。昨年5月の総合教育会議において、明治維新150年に向けての取組について協議しましたが、前回協議した以降の取組を含めて、今年度の取組について説明をお願いいたします。まずは、総合政策部からお願いします。

植田恵理子（総合政策部長）

総合政策部の植田と申します。よろしく願いいたします。それではご報告いたします。150年という大きな節目を、地域活性化の絶好の機会としてとらえまして、市役所全体として取り組んでいく為、昨年7月に下関市明治維新150年庁内連絡会議を立ち上げまして、10月に150年をPRするためのロゴマークを作成いたしました。既にポスターやチラシ等で目にされた方もいらっしゃると思いますが、個人や企業等から、現時点で約150件の問い合わせを頂きまして、HPやSNSの画像、商品等のラベルシール、旗や幟、リーフレット、名刺等と大変様々にご利用いただいております。また、本年2月には本年度市内で行われます記念事業の一覧をまとめまして、ロゴマークの紹介や国、県の関連情報とあわせまして市のHPに掲載しています。続きまして、本年度に総合政策部として、取り組む3つの事業についてご説明いたします。最初に「維新150構想の関連事業」になります。本市は平成10年に、維新発祥の地、下関の街づくりについての長期ビジョンとして、平成30年までの20年間、これを期間といたします「維新150構想」を策定いたしまして、志士の杜推進実行委員会を中心に、今まで取組を進めてまいりました。下関市が維新関連イベントの普及啓発及びイベント等の開催、事業を委員会の方に委託いたしまして、機関誌の発行や維新関連の土地をめぐるツアー等を実施すると共に、実行委員会の方でも独自の事業として、明治維新をテーマとする3体の彫像を建立いたしまして、本市の方に寄贈いただいております。これらの3つの彫像は、いずれも本市の誇るべき歴史を物語るモニュメントとなっております。最終年度となります本年度は、これまでの事業の集大成として、記念イベントの開催や記念図書の制作、これらを予定しております。

2つ目は、「いざ挑戦面白き応援事業」です。この事業は、市民の皆様をはじめ、市内外の企業や民間団体などから、多種多様な取り組みを提案していただきまして、市役所だけでなく、市内全体に関わる全ての方々と一緒に150年を楽しみ、盛り上げていただくことを目標に、イベント等に必要経費の1/2を本市が助成するという事業です。助成額は1件あたり15万円から最高150万円で、対象事業は特産品やアプリケーションの開発、各種イベントの開催など、基本的には何でもOKの幅広い分野といたしまして、多くの皆様、特に若い世代の方々に積極的に取り組んでいただきたいと考えております。募集は2回行うことにしており、既に第1回は先月の4月27日に終了しております。現在認定事業の審査にあたっているところで、今月末には結果をお知らせする予定でございます。2回目の募集については6月から7月上旬を予定しております。

3つ目は、「タウン誌発行事業」です。維新150年を記念いたしまして、年内に1冊まるごと下関を扱ったタウン誌を発行いたします。内容は豊かな自然や食材に彩られた下関の観光やグルメ、産直品の情報だけでなく、本市の移住定住の取組施策や下関人の紹介などで、本市の多種多様な魅力を満載した冊子にしたいと考えております。取材とか編集、印刷、発行等については出版社が行い、本市は広告主として経費の1/2程度を広告料として負担することになっておりま

す。

だいたいの数字ですが、ページ数が130ページ発行部数は3万部で、山口県内、北部九州を中心に近隣地域をターゲットに3000店舗の書店やコンビニで3万部のタウン誌を1冊1000円程度で販売するというようになっております。

以上、総合政策部の取り組みについてご説明申し上げます。

前田晋太郎（市長）

それでは明治維新150年といえば、観光行政の推進が関与しておりますが、観光スポーツ文化部からもご説明、取り組みをお願いします。

吉川英俊（観光スポーツ文化部長）

観光スポーツ文化部の吉川と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

明治維新150年に対する観光の取り組みについてご説明致します。

観光サイトでは、この明治維新150年を絶好のチャンスと捉え、山口県とも連携しまして観光誘致に取り組んでおります。昨年9月から12月までの間、JR6社が山口県で実施を致しましたディステーションキャンペーンも「幕末維新」をテーマにしておりまして、本市におきましても官民一体となった観光推進組織でございます、「下関観光キャンペーン実行委員会」を中心に、維新まつりの支援をはじめ、市立歴史博物館のPRや観光ボランティアと維新関連の史跡や名所をめぐる街歩きツアーを実施し、「明治維新150年」をテーマとした、観光客誘致の推進をしているところでございます。

特に、維新にゆかりある史跡が多く残っております下関市駅周辺及び長府地区、吉田地区等を回遊していただく施策と致しまして、平成30年1月から実施をしております、市内5ヶ所を結ぶ「維新発祥の地下関スタンプラリー」については、親子で歴史を学びながら市内を巡って貰えるよう市内の小、中学校を通じまして台紙を配布し、ご案内をさせていただいている所でございます。

今、お手元にお配りしております「明治維新150年記念下関スタンプラリー」でございますが、見ていただくとわかると思いますが、小学生にはちょっと内容が難し過ぎたかなという気がいたしております。したがって親子で見ただけであればいいのではないかと思います。

また、本市が維新発祥の地であることを広く市民の皆様にご覧いただくための施策と致しまして、明治維新150年をイメージする幟やフラッグを作成し、市内各所に掲出をしております。本日、後ろの方に幟を持ってきております。これは色々な関連のある地域に限らず唐戸地区でもたくさん掲出させていただいております。

本年度は、前年度に引き続きスタンプラリーや幟、フラッグの掲出を実施すると共に、維新まつりの開催を支援する予定です。また、明治維新150年を記念致しました「歴史の街下関観光ガイドキャンペーン」事業を展開すると共に、資料にございますように維新150年観光フォーラムを6月17日に、「海峡と歴史の街下関」と題しまして、観光街おこしを考えるという事で市長講演、パネルディスカッションの開催の予定をしております。

また近年、観光客の皆様にとりまして、地元の皆様とのふれあいが旅の目的の一つとなっております。観光スポーツ文化部と致しましては、引き続き全国に維新の街下関を発信していくと共に、市民の皆様に対しても広報活動を行う事で、全市的な気運を高めて参りたいと考えております。以上でございます。

前田晋太郎（市長）

明治維新150年を機に、下関市のブランド力アップ、認知度、知名度のアップもされることを期待しておりますが、その点につきまして産業振興部の方から取り組みをお願い致します。

山本卓広（産業振興部長）

産業振興部の山本でございます。お世話になります。

今日お配りの資料の1ページ事項1の事に基づいて説明申し上げます。

私達、産業振興部からは、「下関ブランド明治維新150年記念認定事業」でございます。
この事業は、明治維新150年を迎える年を機に、地元にも愛され、全国に誇ることが出来る優良な産品を下関ブランドに認定し、それらを維新発祥の地下関から発信することにより販路拡大に繋げていくものでございます。

事業内容と致しましては、皆さんに親しまれていました下関ブランド認定品をリニューアルするもので、昨年9月からこの1月末まで新たな認定品の募集行い、5月24日に認定式を執り行ったところでございます。

2の認定内容でございますけど、今回100商品を認定目標にしておりましたが、結果的には58事業者133商品と目標を大きく超える事ができました。

認定された商品につきましては、3番の今後の展開でございますけれど、今後市内量販店での催事開催や、本市ホームページでの紹介、市のイベントでの景品への採用、商品への認定商品の表示など、市民の皆様に見える形でご案内できたらと考えております。

今回テーマとなっております郷土愛の醸成には、地域の産物や地域で培われた技術から創り出された商品をご家庭で味わっていただくことから始まるのではないかと考えております。

認定品にも含まれておりますが、味噌や醤油は味覚形成の大きな要素となりますし、食卓に並ぶ、ふくやくじら、明太子、ビン詰雲丹など下関がその発祥に深く関わるものは郷土の記憶となり得ますので、学習の機会に活用していただけたらと思っています。

対外的には、記念商品を機に地域経済活性化に繋げる為に、バイヤーや量販店に向けた発信など積極的に販路拡大や需要拡大を図ってまいりたいと思っておりますが、市民一人ひとりの情報発信が地域のブランドや市場の形成に繋がる大きな力となると思っています。

教育委員の皆様におかれましても、是非地元の優良な産品を自らご賞味いただきますと共に、市内外の方々にご紹介いただけますように宜しくお願い申し上げます。以上でございます。

前田晋太郎（市長）

下関の歴史や史跡に触れることは、子供達にとって郷土愛の醸成のためには絶好の機会でございます。教育委員会での取り組みについての説明をお願い致します。

町田一仁（歴史博物館長）

歴史博物館の町田です。宜しくお願いいたします。

昨年この会議でも申し上げましたが、歴史博物館にとっては昨年が高杉晋作没後150年、坂本龍馬没後150年、大政奉還150年でありましたので、明治維新150年の正念場という意気込みで様々な事業を行ってまいりました。春には東行記念館との共同企画で晋作没後150年の記念企画展を、秋には龍馬没後150年記念特別展を開催すると共に、常設展示におきましても幕末維新に関する資料を積極的に出品したところです。また、10月28日には生涯学習プラザ大ホールにおきまして、シンポジウム「志士たちがみた下関、希望の街へ」を開催致しました。このシンポジウムは、龍馬研究者による基調講演、前田市長のコーディネートによりまして、西郷隆盛、坂本龍馬、白石正一郎、伊藤九三、三吉慎蔵のご末孫の方々によるシンポジウムを行ったところでございます。

晋作の企画展は歴史博物館が5890人、東行記念館が3011人の合計8901人、龍馬の特別展には7515人の方々が市内外からご観覧に来られ、シンポジウムには500人の市民の方がご来場されました。

さらに、京都市をはじめ全国22の幕末維新ゆかりの都市が参画いたしました大政奉還150年記念プロジェクトに歴史博物館としても積極的に関わり、参画都市の幕末維新ゆかりの観光スポットや博物館など22ヶ所を巡るスタンプラリーのスタンプポイントとして、積極的に下関の幕末維新情報を全国に発信し、そして誘客に努めたところでもあります。

本年度の取り組みにつきましては、まず展示でございますが、お手元に配布させていただいております年間行事予定表、表が本年度、裏が昨年度の行事でございますがこちらをご覧くださいと思います。年度前半に3本続けて明治維新150年記念企画を持ってきております。まず、企画展示として年度当初から5月20日まで「幕末のメディアと下関」を開催し、先週の土曜日

からはもう1枚チラシを配布させていただき「下関のラストサムライ旧代を生きた藩主と藩士達」を開催しております。そして、この企画展終了後は特別展示として、「海峡の幕末維新」を9月2日まで開催いたします。年度後半につきましては、常設展示の方で幕末維新のコーナーを充実させてまいりたいと考えているところであります。また、東行記念館の年間スケジュールも掲載しており、当然の事ながら高杉晋作や明治維新の事が中心となりますが、6月26日から9月24日までクイズなどを取り入れた子供向けの展示を行う予定に致しております。

なお、歴史博物館と東行記念館では、明治維新記念事業山口県推進協議会が実施しています幕末維新回廊推進事業に参加いたしております。お手元に3月に作成されましたガイドブックを配布いたしております。9ページと10ページに歴史博物館と東行記念館の情報が大きく掲載されており、ご覧いただければと存じます。9ページは歴史博物館でございまして、「さあ龍馬に会いに行こう」そして10ページは東行記念館でございまして「さあ晋作に会いに行こう」というふうになっております。この事業は、ポイントが加算される「山口めぐりっとカード」を発行し、県民や観光客に県内各地の明治150年イベントを開催する博物館や美術館を周遊していただき、山口県の魅力を全国に発信するものです。具体的なメリットと致しまして、歴史博物館や東行記念館の展示会情報や施設情報が掲載されたイベントガイドブック、これは3月と5月に発行し合計15万冊となりますが、これを首都圏や関西圏などを中心に全国に配布される予定である事から、広域的な広報効果があります。加えて、「めぐりっとカード」によるポイントラリー参加者の博物館観覧の促進効果などがあります。この機会に一人でも多くの方に下関を訪れていただければと思っています。

次に子供達の郷土愛の醸成に係る取り組みについてであります。歴史博物館の現在の展示につきましては、どうしても一般向けの展示や展示解説が中心となってしまう為、子供達にとっては少し難解なものであります。大きな博物館でありますと、子供向けの展示や学習支援スペースなどを館内に別に設けているところではあります。現在の歴史博物館の新館のスペースではこれを割くことが困難であります。そのため、旧長府博物館を改修して、子供向けの学習支援スペースなどとするのが当初からの博物館建設計画であり、これが完成して本当の意味での新博物館が開館、グランドオープンとなるものです。旧長府博物館を歴史博物館の教育普及活動、学習支援活動のスペース、仮称「ふるさと学習館」として整備し、新博物館と一体的に活用することを実現しなければ、何時までたっても歴史博物館は未完のままであると共に、何よりも子供達に対して、十分なふるさと学習の機会を提供する事が出来ません。財政上のこともありますが、できるだけ早く旧長府博物館の改修に着手したいと考えているところであります。

とはいえ、この完成まで何もしないというわけではなく、現在でも小・中学生の社会見学やふるさと学習、出前講座、小学校・中学校・高校の教育研究会、社会科部の先生方の研修、PTAの皆さんの研修に、工夫しながら積極的に対応しているところではあります。ところが、これらの取り組みはどちらかと言えば、博物館側が児童・生徒の興味関心、学習進路、学習指導要領を十分理解したものといえず、博物館側、対応する学芸員の興味関心、思いで一方向的に進めることがままあり、児童・生徒の学習意欲をかきたて、自ら学び考える事の契機となっているのかどうか、一方向的な知識の教授に止まっているのではないかと、といった疑問も感じる事も多々あります。

其の為、本年度からは博学連携、博物館と学校の連携をさらにもう一步前進させた、ふるさと歴史講座、ヒストリーはミステリーに取り組みます。この取り組みは、下関の未来を担う子供達がふるさとの歴史に興味や関心を持ち、ふるさとへの愛着を育む事を目的としたものでありまして、歴史博物館が事前に教育研修課や学校と十分な協議を行ったうえで、幕末を中心としたふるさとの歴史に係る授業を計画的に学校において行うものです。

学校の先生方は児童・生徒に教育するプロであり、到底私達が及ぶものではありませんが、私達は博物館資料というものを取扱い、そのものから様々な情報、地域の歴史を取り出して再構成するプロでありますので、その強みを活かして博物館資料を教材とし、学習進度や学習指導要領と関連付けた学習プログラムを作成して、ふるさと学習に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

歴史博物館では引き続き下関の幕末維新情報を発信して、交流人口の拡大に少しでも貢献させ

ていただくと共に、何よりも博物館は教育施設でありますから、ふるさと歴史講座などを通じて、子供達に真の郷土愛醸成のための活動を積極的に実施してまいり所存であります。以上でございます。

前田晋太郎（市長）

勝山御殿がありますね。続いて文化財保護課お願いいたします。

高森俊明（文化財保護課長）

文化財保護課の高森でございます。宜しくお願い致します。

文化財保護課における平成30年度の明治維新150年の取り組みにつきましてご説明致します。

幕末の動乱期、欧米列強による我が国への脅威が高まる中で、長州藩が攘夷を決行し、外国船の報復攻撃に備えて築城された、江戸期最終末期の城郭である勝山御殿跡につきましては、国指定史跡前田砲台跡と密接な相関性をもって配置され、日本の近代文化へ向けて果たした役割が高く評価されつつあります。明治維新150年を節目に、その文化財としての価値を内外に積極的にアピールする事によって、市民の文化財への愛護意識を醸成する為、第13代藩主毛利元周公入城の様子を史実に基づいて再現する形で、勝山御殿落成日である11月21日前後の日程により、幕末当時の様子を再現した歴史仮装行列を、勝山地区まちづくり協議会をはじめ、地域住民の参加によって企画し執り行う予定でございます。

勝山御殿跡につきましては、これまでも現地説明会、生涯まちづくり出前講座、関連講演会、シンポジウムの開催等を計画的に実施してまいりました。また、平成30年1月から3月にかけて明治150年企画の皮切りとなる記念企画展、史跡が語る幕末の下関を考古博物館で開催し、その他関連資産と共にご紹介したところです。平成30年度におきましてもこれまでの取り組みをもとに、地元関係団体をはじめ地域の皆様とも連携して、本市の有する文化財の価値を積極的にPRしてまいります。以上ご報告申し上げます。

前田晋太郎（市長）

博物館、御殿跡について説明いただきました。今年は明治維新150年ということでございまして普段から学校教育の中で子供達に、下関の歴史を知る機会を作っていく事が大切であろうと考えております。そのあたりの事についての教育委員会からの説明を求めたいと思います。

三井清（教育研修課長）

教育研修課の三井と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

学校における下関市に係る学習についてまずご説明いたします。資料の2ページをご覧ください。下関に関する学習は、小学生では主に生活科や社会科の授業で行います。

小学校の1・2年生で行います生活科においてはまず、地域の町を調べる活動等をとおして自分達が住んでいる地域の身近な人々、社会及び自然の良さや素晴らしさ、自分との関わりに気づき地域に愛着をもち自然を大切にしている心情を培っています。

続いて、3・4年生では社会科の学習が始まり、学習の対象となる範囲も広がり自分達が住んでいる市や県について学習します。

下関市では、市の特色等について学ぶ為の下関市内の社会科について専門性を有する職員が編集した、お手元でございます「わたしたちの下関」という副読本を活用して学習を進めております。「わたしたちの下関」を活用した学習を通して、海を埋め立てた場所など市内各地域の特色について学習すると共に、梨やミカン作り、ハム・ソーセージ工場などの特色のある産業や、深坂のため池を作った先人の苦労などについて学んでいます。これらの学習を通じて子供達が下関市の素晴らしい自然や人、伝統、文化について学び、ふるさと下関への誇りを持ち、志を抱いてくれる事をめざしております。

また、小学校6年生の社会科の歴史においても壇ノ浦の戦いや明治維新、日清戦争など歴史の節目において下関市が舞台となっていることを系統的に学習します。

中学校におきましては、1・2年生の時に歴史の学習を行います。小学校の歴史学習を更に掘り下げ、歴史に係る事象の意味や意義、伝統と文化の特色について、比較や現在とのつながりなどに着目して多面的、多角的に学習する事としています。

今年度はこれら社会科を中心とした学習に加え、明治維新150年を機にその機運を盛り上げる3つの取組みを行います。資料3ページをご覧ください。目的は、明治維新150年を迎えるにあたり、児童生徒が自分の住む地域の行事や歴史等について調べる活動等をとおして、自分が育った地域の良さを知り、ふるさとを誇りに思う心を醸成する事としております。

その目的に向けて行う3つの取組みをご紹介します。

1つ目は「大すきふるさと下関歴史マップ」です。この取組みは市内各小学校の6年生を対象に下関の史跡等をまとめた地図を配布し、地図を参考に夏休み中に6年生が史跡等を訪ね、新聞にまとめる活動を実施するものです。まとめた新聞を市教委において表彰すると共に、旧市内及び旧4町において展示を行います。

2つ目は、今年度新たに行う「ふるさと発見、下関歴史かるた」の取組みです。これは、下関市内の名所や旧跡、産業等に関わりのあるかるたの読み札の言葉を小学生から募集し、下関市に関わるかるたを作成、配布し、市内各小学校で活用することを通じてふるさと下関市を知る事をめざした取組みでございます。

3つ目は「ジュニア下関PR隊」の取組みです。これは、市内小・中学校から5校を選定し、その学校の児童生徒を「ジュニア下関PR隊」として任命し、それぞれの地域行事やイベントに参加し、幟やたすき等を活用し、その地域の良さについて観光案内を実施するものです。

これら3つの取組みを通じて自分が育った下関の良さを知り、ふるさとを誇りに思う心を醸成する事を目指します。以上、学校におけるふるさとと下関市の学習と明治維新150年に向けた取組みについてご説明しました。どうぞ宜しくお願い致します。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございました。ここからは自由討論になるのですがけれども、今回、吉村委員と小田委員が初めて参加致します。教育長も新しくですが経験があるので。まあ、肩の力を抜いてゆっくりと話をしたと思います。そもそも明治維新150年を機にはじめてまいりますけれども、要は私の思いとしては、子供達に下関の素晴らしさを伝える、自分達の住んでいる町に自信と誇りと郷土愛を持つ。そしてその先には、今人口減が下関にも顕著に出ていまして若い方が自分の町に自信が持たなくて都会に行ってしまう。それを止める我々大人も自信を失ってしまって「帰って来い」と強く言えないような状況が繰り返されていると思います。大人も子供も皆難しいですが、総合教育会議においては子供達に対してしっかりとまず伝えて行こうと思いますので、今年度の取組みと資料等は各自の取り決めからもありましたけれども、皆様からも感じるどころとか、どういう事をこれからやって行けば子供達に自信を持ってもらえるというところで意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

吉村邦彦（教育委員）

今年から教育委員になりました吉村と申します。宜しくお願いします。

今、各部の方々のご報告を頂きました内容で、私初めてこういう席に座らせていただきますが、限りなく市民に近いといえる立場としてうけたまわりますが、皆様が一生懸命に取り組んでいる事があまり目に見えたり耳に聞こえたりする事はないと思います。もっとやはり、総合政策部で100社を超える企業からという話もありましたし、他の部の方からも旗やリーフレット等作られているという事もたくさんありました。積極的にアピールするって事においてですけれども、どこでどういう風にアピールをして、どうやって伝えるかという事をもっと深く掘り下げて考えていかなければならないという事。あとは、学校教育の中で子供達の学習の中で維新150年をきっかけに色々レセプションしていくという話もありましたけれども、子供達だけが学習の場で勉強するという事も大切だけれども、たとえば参観日に保護者の方にも一緒に考えて頂くというようにもっともっと工夫できる場所もあると思うし、下関ブランドに関しても13品今回束ねたという事ですが、バイヤー向けの紹介とか市のホームページとかで、ブランドに対してこう

いうマークがついていますよという様な事を市民の方々にもっともっと伝えていくべきだと思います。イベントとかもそうですけど、町を歩けば下関ブランドにあたるみたいな、そしてどこでも買えますよという事をもっとアピールして、下関の物は市民の皆さんもっと買いたしよと。

今、ネット社会で私の妻も毎日買うのか色々な物を送って来るのですけれども、じゃー本当に下関ブランドを買っているかと言うとそうではなく、どうしても欲しいもの、逆に手の届かないもの、こういうのを買っている傾向にありますので、是非、どういうやり方が良いのか今は具体的にはわかりませんが、そこをもう少し考えていかなければと思いました。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございました。

政治行政のまさに一番難しい所で私もずっと発信力、発信力と言っていますが、すごく良い事いっぱいあってやってきてなかなか市民には伝わらない。私も実はこんなに良いところあったのだねというような事もありますし、これからもまだ大きなテーマであります。そしてまさに組長として私も発信力を求められている自治体同士の戦いの中で大切な事だろうと思います。

それから下関ブランドの認定は133品で、実は平成18年度からブランド認定しているのです。例えば「ようできちよる」という言葉が入った認定シールもあります。

吉村邦彦（教育委員）

市の努力も大事だけど企業努力も大事だと思います。そこはお互いどういうふうやっていくのか、そして企業の方もせっかく選ばれたのにそこをちゃんとアピールできていない事も問題だと思います。市の方からも民間に「ちゃんとアピールして下さいね」と言わなければいけないと思います。

前田晋太郎（市長）

そうですね。

吉村邦彦（教育委員）

私も商売をやっているのですが、たとえば旗とか利益が出るものは何処に行けば手に入るのか。自治会の連絡版とか、そういう貼るところもあると思うのですが、そういうところに貼っているのを目にした事はありません。もっと自治会とか地域とか下関にはそういうところがたくさんあると思うので、公共施設のところに立てているだけでなく、自治会とかそういうその地域しか行動しないご年配の方にも目に入るようにしていかなければいけないのではないかなと思います。

前田晋太郎（市長）

はいどうでしょうか。皆さんご意見は。まだ時間は大丈夫です。

藤井悦子（教育委員）

先程子供達の教育の中で「ふるさと発見下関歴史かるた」というのがありましたけど、読み札と言葉と絵が1つになる事で、覚えやすく楽しみながら自分達の地域の事、歴史の事を学べるというのは本当に良い事だと思います。それからまたかるたは多分小さめと思うのですが、大きめのかるたを作って、イベントの時にゲーム感覚で皆さんで参加するというのはどうでしょうか。

前田晋太郎（市長）

今、かるたの進ちょく状況はどうですか。三井さんどうぞ。

三井清（研修課長）

今、市内の小学校の教員の中で社会科の専門性のある教員を5名ほどお願いしています。社会科の中でのかるたの札印というのを募集して、今トリイの中で原案を進めているところです。その

中である程度下関の中に出て来る様な名所、旧跡、産業等をピックアップして、その中から作ったらどうですかという言葉いくつか選定しております。もちろんこれ以外に子供達が気づいた言葉の中から選んでも大丈夫なのですけれども、6月の始め位から小学校の方をお願いして1学期中に言葉を募集して2学期の間に先ほど申しました各作成委員が言葉をどれがいいか選定します。2学期にはそれを各作成委員に選択をお願いして、正月位には子供達のお手元に届くというスケジュールで進めております。

前田晋太郎（市長）

お正月がかかるたですからね。正月前には届くようにしてほしいですね。

小田耕一（教育長職務代理）

4月から委員になりました小田と申します。宜しくお願い致します。

今、かるたの話が出ましたが、私は歴史博物館の佇まいが気に入っておりまして大変素晴らしい建物だと思います。展示物もとても落ち着いたものがある良いなと思っています。先ほどご説明の中にもありましたけど、歴史博物館にあるものが大変素晴らしいので、それを学校教育と連携して活かしていきたいという話がありましたが、その中で特に順位をつけるのは難しいと思いますが、1番の売りは何なのかということをお子達に繰り返し伝えていく事。そしてそれがかるたになって反映され、博物館に行ってもとかるたが見られたり手にふれたり出来るというそういった連携も必要ではと思いました。以上です

前田晋太郎（市長）

博物館のベスト3というのは、ちょっと難しいですけどどうなのでしょう。見るところは、龍馬の偉人は国内最大だと思いますが、その中でも船中八策あれは現物なのでしょう。

町田一仁（歴史博物館長）

新船航路八策は現物でございます。当市の一番の人気商品です。日本全国あちこちから明治維新150年で回収命令が出ていて、とてもじゃないけど間に合いません。

当然の事ながら坂本龍馬、高杉晋作とかの資料が、やはり歴史的に一番人気のある物とは思っておりますが、ただそれだけでなく、やはりふるさと下関の歴史を語ろうとする時に、そんなに人気はないけれど本当はこれが下関を語る上で大事であるとか、たとえば馬の話しというのがあるのですが、これは資料がありますが、よく私もいろいろな所で話しますが、馬の糞にまみれた馬の生い立ちも先ほどの龍馬の新船航路八策も資料としての大切さ、あるいは歴史を考える上では同じ価値があるのだよというふうなお話もさせていただいてることで、資料にはそういった後尾はないと思っておりますが、ただ3大紙に博物館の事を理解していただくためには小田先生が申したとおり当然考えていかなければ思っていますので、研修課とこれから色々な事を提携協議して各学議の方で活かしてもらいたいと考えています。

前田晋太郎（市長）

はい、有難うございました。それでは教育長お願いいたします。

児玉典彦（教育長）

はい、それでは新博物館についてですが、私及び下関の代表が展示場に行きました。入場料を払おうと思ったら100円でした。ちょっと100円というのがよくないのではないのか。中を見たのですが、100円で見られるような展示内容ではありませんでした。もっと高い値段をつけてもいいのではないのか。まあ1000円は高いかもしれませんが、価格については安ければいいという発想からもっとプライドなどで集めたいという事をアピールしてもいいのではないのか。それだけ内容あるものだった様に思います。

子供達にも是非見てほしい。昔の下関の人たちがどれだけ郷土の為に力をつくしたか、それが解るような仕組みのなっていてお返しをしました。それから受付の前にスペースがありますので

子供達の学習スペースとして使わせてもらえるようになると、子供達も宿題を持って行ってそこで勉強できるのではないかと思いました。

前田晋太郎（市長）

大変貴重な意見を有難うございました。100円なのですね。難しいですね。100円だったら人がたくさん来てくれるだろうけど、ただ価値観、それをどれだけ上げるかというのも我々は考えなければならぬ一つの大きな項目、柱だろうと思いました。

児玉典彦（教育長）

100円でもし見た人が100円で見られるようなものかと思ったら、あまり興味がわからないのかと逆に思いました。それで、500円、1000円その位は出してもいいのではないかなと思っています。

前田晋太郎（市長）

時間があまり無いのですけれど、私が思うに子供達に吸収させるという事、自信を持たせるというのは、子供達感覚で言わせてもらうと、テレビに出てものとか、教科書に載っているものは凄いのだ。だから、覚えなさいといけないだとか、だから自信を持たないといけないのだと。そういう短絡的な発想かもしれませんが、そういった要素もいるのかなと。たとえば昨日もテレビで下関がのど自慢で紹介されましたが、そういうので自信を持つとか、教科書にも下関が出ているようなものをそういった基準で選んでいくというように、今から少しずつまた皆さんで議論していかなければと思います。

それでは時間となりましたので、次に（2）芸術、文化、スポーツに触れる機会の創出について協議、調整を行います。

子供達の豊かな感性や創造性を育て、心身の健全な発達を促すことは子供達の学ぶ意欲、学ぶ力の創造には不可欠であるというふうに思っております。学びの町の実現には、教育以外の場においても、子供達が優れた芸術、文化、スポーツに触れる機会の創出、そして体力の向上が大切であろうと考えておりますので協議したいと思います。

それではまず、文化、スポーツに触れる機会の創出への取組みについて、観光スポーツ文化部から説明をお願いできればと思います。10分間でお願いします。

吉川英俊（観光スポーツ文化部長）

本市、観光スポーツ文化部におきましては、これまでの観光、スポーツに関わる事業に「文化、芸術の振興に関する事業」を新たに加え、地域の文化、芸術についてもしっかりと情報発信することで、市民が自主的に活動し相互に交流を深め、本市の更なる賑わい創出に繋がっていく事を目指してございます。

それでは資料の4ページ、5ページをご覧ください。 「芸術、文化に触れる機会の創出」に係る主な取組みについてご説明いたします。本市では、既存の2つの文化施設におきまして芸術文化の鑑賞の機会の充実や、芸術活動の充実に努めてございます。1つ目は下関市民会館でございます。パンフレットにも出ておりますが、そこを拠点とした「地域の芸術文化の振興を図る事業」でございます。本施設において多様な主催公演等を実施することで、芸術、文化に触れる機会を提供してまいります。本年度は明治維新150年を記念しまして、7月24日にパンフレットが入っていますが、NHK交響楽団下関公演を開催いたしてまいります。その他、第17回市民会館名画劇場、KIRORO、斉藤和義コンサートなどを開催しまして、心豊かで創造的な芸術文化活動を展開していきたいと考えております。

また、体験活動等では、「演劇ワークショップ」を開催しまして日頃体験することの無い大ホールでの舞台芸術を学び、本物の舞台芸術に触れる事で、その魅力を身近なものにしてまいりたいと考えております。さらに地域公演といたしまして、要望のある市内小中学校において、プロの演劇や音楽アーティストによる演奏会等の公演を開催する学校公演や、著名なアーティストと市内の小中高の青少年が共演するファミリーコンサートを開催し、地域における芸術文化の振興を

図ってまいります。これら市民会館で行われる主催事業では、世代別、ジャンル別に多彩な公演を企画しており、大人も子供達もだれもが芸術文化に触れることが出来る機会を創出し、さらには市民自ら自主的かつ創造的な活動を行うためのきっかけづくりを提供してまいりたいと考えております。

2つ目はすでにパンフレットをお配りしておりますが、「下関市立近代先人顕彰館」を拠点としたふるさとの芸術文化の普及振興を図る事業でございます。下関が生んだ文学者や音楽家などをはじめ、下関とゆかりの深い先人の功績を顕彰するため、近代先人顕彰館において、下関の文化情報を発信するとともに、ふるさと文化事業を実施しております。1階の「ふるさと文化館」では所蔵品展を開催し、下関にゆかりのある作家とその作品を紹介いたします。大変残念なことで、5月5日に名誉館長であります古川薫先生がご逝去された、名誉館長の部屋もでございます。今、記帳台を設置させていただいております。それから2階の「田中絹代記念館」においては、下関が生んだ女優、田中絹代の遺品や膨大な写真、映画資料による所蔵展、企画展を開催します。さらには「ふるさと文化事業」といたしまして、田中絹代や田中絹代と繋がりのある女優、監督の映画作品の上映や、ミニホールでのミニコンサート、体験教室、夏休み特別講座などを開催し、市民が様々な芸術、文化に触れ、知識や教養を深めていただくことによりまして、地域の芸術、文化をより身近なものとしていただきたいと思いますと考えております。本施設でこのような取組みを展開することで、子供達にも下関市の優れた歴史や文化の再発見のきっかけとしていただき、芸術、文化への理解を深めていただく機会を創出してまいりたいと考えております。

続きまして、スポーツに関係するものについて説明致します。本市スポーツ行政は、「生涯スポーツの推進」「競技力の向上」「スポーツの場と施設の充実」「スポーツによる地域活性化」の4つを基本方針とした下関市スポーツ推進計画に基づきまして、スポーツで人も街も楽しく元気アップを基本理念に推進しています。市民の誰もがいつでも、どこでも、いつまでも、幅広くスポーツを「する」「観る」「支える」「楽しみ」を享受できるような事業に取り組んでまいります。

その中で、特に子供たちがスポーツを「する」「観る」「支える」機会の創出に関する取組みについてご説明いたします。まず、スポーツを「する」の取組みとして「スポーツ少年団への活動助成事業」についてご説明します。平成29年度の数値となりますが市内には20種目、140団体のスポーツ少年団がありまして、団員数は2,875人、指導者は637人でございます。それから加盟団体の交流育成事業にかかる活動費等を補助しています。各単位団での校区や学年の枠を超えた活動だけでなく、市内各単位団相互の親睦を図ることを目的とした駅伝大会や、毎年2月に行われています北九州市スポーツ少年団交流大会への参加など、様々な活動を行っています。

また、下関市体育協会への委託や補助事業として、市内のスポーツ選手をレベルアップするため、トップアスリートを講師とする教室を開催しています。平成29年度は、卓球、ソフトテニス、サッカー、軟式野球、ボウリングの種目で開催し、延べ800人を超える参加がありました。

次に、「チャレンジデー」、「ちびっ子スポーツフェスティバル」についてご説明します。一昨年度から本市では「チャレンジデー」に参戦しています。「チャレンジデー」は、毎年5月の最終水曜日に世界中で開催されている住民総参加型のスポーツイベントですが、今年は明後日の5月30日の水曜日に開催されます。普段あまり運動をしない方にも、無理のない運動をする機会の提供を目的とし、子ども達にも参加していただきたいという事で、市内各学校等には毎年春の校長会・園長会の機会に参加の協力依頼をしております。因みに昨年の5月30日は人口に対する運動に参加した方の率を競うものでした。今年は江戸川区との対戦でございます。是非、各教育委員におかれましても15日以上運動して豊北高校に報告していただきたいと思っております。家庭でも職場でも結構です。協力の程宜しくお願い致します。

次に「ちびっ子スポーツフェスティバル」でございますが、毎年9月に実施しております。青少年の健全育成や地域でのスポーツ活動の推進を図ることを目的として、市内の小学生やスポーツ少年団、また北九州市スポーツ少年団を迎えて、グランドゴルフやスポーツチャンバラなど日頃なじみの少ないレクリエーションスポーツにチャレンジしてもらおうイベントです。昨年は317人の児童に参加いただきました。

続いてスポーツを「観る」でございます。この取組みとしては、地元山口のプロサッカークラ

ブである「レノファ山口F. C」の下関ホームゲームの開催があります。これもチラシを入れています。実は昨日5月27日に1回目の開催を陸上競技場で行いました。結果は1：0で讃岐カマタマーレに勝利しました。試合内容はあまり良くありませんでしたが、とりあえず勝利で終了したので良かったと思います。10月に2回目の開催を予定しており、併せてプロチームを講師としたサッカー教室の開催を予定しております。

また地元ではあまり知られていませんが、今年9月には深坂の森でマウンテンバイクの国際競技連合公認レース（カップ・ドゥ・ジャポン深坂国際クロスカントリー）の開催が予定されています。これに併せて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた自転車競技キャンプ地誘致の準備も進めているところです。実現すれば海外のトップ選手と市内のこどもたちとが触れ合う機会の提供などができると考えています。

最後にスポーツを「支える」でございます。この取組みとしては、こちらもパンフレットを入れていますが、今年の11月4日に開催します「下関海響マラソン」や来月6月17日の「ツール・ド・しものせき」での多くの児童・生徒さんのボランティア参加が期待されます。応援ボランティアで参加くださる中学生のブラスバンドは、毎年多くの参加ランナーから演奏に励まされたとの感謝の言葉を頂いています。また例年各小学校にお願いしています「応援のぼり旗」の作成も、大会会場を彩る大きな支えとなっています。このように、市では市民の誰もが自分に適した様々な形でスポーツを支え、楽しむ事ができる環境づくりを行いまして、市の活性化とそれを支える人材の養成に努めていきたいと考えています。

以上、本市の子供たちがスポーツに触れる機会の創出に関する取組みについてご説明しました。

前田晋太郎（市長）

それでは芸術に触れる機会について教育委員会から説明をお願いします。

中村美幸（美術館長）

美術館の中村です。宜しくお願ひ致します。

芸術に触れる機会の創出については、美術館業務全般に係ることですが、主に展覧会の開催業務において優れた鑑賞の機会を充実させ、普及教育業務において美術への理解と関心を深める機会を増やすように努めています。6ページの活動の写真を見ながら、具体的な取組みについて説明させていただきます。

まず団体鑑賞の受入ですが、展覧会を前提としています。美術館では美術史的・文化史的に優れた内容の芸術文化の紹介や、地域の美術活動にとって意味深いのも、広い年齢層に親しめるものなど、多様な展覧会を開催し、地域文化の向上につなげています。年に特別展、所蔵品展あわせて7、8本開催しており、教育活動の場として美術館を利用いただけるように、団体鑑賞の受入を行っております。子供たちがより積極的に作品鑑賞に向き合えるようにオリエンテーションやギャラリートーク、各種ワークシートなどを使用した鑑賞方法も提供してまいります。

職場体験ですが、美術館では中学生の職場体験、高校生のインターンシップを毎年受け入れており、美術館での仕事の実体験を通して、働くことや自分の将来について考える機会を提供しています。美術館ですので美術作品と接するプログラムもあります。写真は作品鑑賞のプログラムの一コマで、自分が気になった作品を選び、感じた事、気づきなどを皆の前で発表しているところです。作品鑑賞は答えがひとつではありません。10人いれば10人の考え方があります。自分自身の価値観や感性でどう思うか、ということを相手に伝える事で、観察力や思考力、創造力、コミュニケーション力などを高めて、子供たちの可能性を引き出すことができると言われています。作品鑑賞は子供たちの豊かな感性や創造性を育む上で大変有効な学びだと考えます。職場体験でも紹介しましたが、団体鑑賞のプログラムも提供できるかと思ひます。

出前授業、出前講座についてですが、美術館では小中学校および高校に向けて美術館の利用促進を働きかけておりますが、授業時間数の確保や交通手段の問題など美術館に出向くということがなかなか難しいという現状があります。ならば美術館から学校へ出向いて美術への興味、関心を深めてもらおうということで出前授業を行っております。子供たちから「絵を見る楽しさを知った」という嬉しい声も聞こえています。

次に小・中・高校生を対象としたチラシの制作、配布です。展覧会のチラシを学校向けに制作し、教室内での掲示や、児童、生徒への配布をお願いしました。クイズや間違い探し、塗り絵など、展覧会への関心を持ってもらえるよう工夫しましたが、どれだけ効果があったかを今後検討する必要がありますと考えております。

子ども造形教室ですが、美術館は見るだけでなく、創作の楽しみを体験できる場でもあります。夏休み期間に子ども造形教室を開催するほか、展覧会にあわせて子供向けのワークショップを行っています。写真は「英語でステンシル版画に挑戦」の一コマです。小学校で英語教育の重要性が叫ばれる中、英語による指導で版画講座を行いました。また、作品鑑賞と創作活動を連動させたプログラムも行っていきます。

「Shimobiでガーデンアート」は、子どもから大人まで、美術館の広い庭を舞台にアーティストと一緒に作品を作ったり、心地よい音楽を聴いたり、一日中芸術に触れて楽しむイベントで、美術を愛するボランティアの皆さん、また長府地区の皆さんの力によって実現したものです。写真は芝生広場に段ボールを広げて刷毛やブラシで思いっきり絵を描いているところです。子どもたちが芸術に触れ、楽しいと感じる時間を美術館で作っていきたいと思います。今年度は美術館の工事の関係で開催できませんが、美術館のイベントとして今後も市民の方の力を借りて継続できればと思っています。

平成30年度の展覧会については、お手元にお配りしていますスケジュール表をご覧ください。工事の関係で上半期のみですが、これらの展覧会の開催や関連の催し、その他普及教育活動を通じて、学校とも連携を取りながら子供たちが芸術に触れる機会の創出に努めてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。以上です。

前田晋太郎（市長）

それでは教育現場の方で、そのあたりについて教育委員会説明をお願い致します。

三井清（教育研修課長）

教育研修課から説明させていただきます。資料の7ページをご覧ください。芸術、文化に触れる機会について2つの事業をご紹介します。

最初は、「文化芸術による子供の育成事業」についてです。この事業は文化庁が行っており、子供たちの豊かな創造力や思考力を養うとともに、将来の芸術家やよりよい観客を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。本事業は、2種類の事業で構成されています。

一つ目は小、中学校において文化庁が選定した文化芸術団体が公演やワークショップを行う「巡回公演事業」です。公演内容は学校の希望により、演劇や伝統芸能の団体を招聘し、平成29年度は5校が実施しました。もう一つは小、中学校に個人又は少人数の芸術家を派遣し、子供たちに対し質の高い文化芸術の実施指導を行う「芸術家の派遣事業」です。この派遣事業の講師は、音楽家や演劇、日本舞踊などの地域の芸術家や文化庁の協力者リストなどから学校が選定します。平成29年度は26校が実施しました。これらの2つの事業に係る公演料や交通費などの経費は文化庁が持ち、学校が負担することなく実施できます。

続いて、こころの劇団「劇団四季ミュージカル」についてご紹介します。こちらは下関市内の企業の協賛をいただき、市内小学校6年生を下関市民会館等で実施する劇団四季ミュージカルに無料招待する事業です。6年生は生のミュージカルを間近に見る事ができ、鑑賞後の児童からは毎年感激した内容の感想が寄せられます。

続いて子供たちがスポーツに触れる機会についてご紹介します。子供たちのスポーツに係る事業として、水泳事業における地域スポーツ指導者派遣事業がごございます。この事業は、水泳指導に専門知識、技能を有する人材を希望する学校に派遣し、一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導を行うと共に、安全管理体制の充実を図る目的で実施しております。昨年度は小学校9校がこの事業を活用して水泳指導の充実を図りました。

続いて、地域スポーツ指導者（武道、ダンス等）の活用実践支援事業についてご紹介します。この事業は、武道等に関する高い技術指導力を持つ指導者を中学校に派遣し、武道及びダンス等の安全で充実した授業の実施と教員の指導力の向上をめざす事業です。昨年度は中学校2校が剣

道の学習において本事業を活用しました。その他にも例えば、熊野小学校においてレノファ山口の選手との交流会が実施され、スポーツに携わる方から直接話を聞く機会などもありました。

以上、子供たちが学校において芸術、文化、スポーツに触れる機会についてご紹介しました。宜しくお願い致します。

前田晋太郎（市長）

これまで部局に説明をいただきましたが、教育委員の皆さんにご意見を伺いたいと思います。

吉村邦彦（教育委員）

非常に良い取組みをたくさん頂いた中で本物に触れあう事は大切な事と思います。その中で今からはITとかデジタルな部分も、芸術、文化、スポーツ、（スポーツ）はどうか解りませんが、行政としても少しずつ取り組んでいった方が良いと思います。世に出れば当たり前にあるものですから、昔の良きものも大切ですが今から新しいものに取り組むというスタンスも大切な事だと思います。

前田晋太郎（市長）

はい、なるほど。有難うございました。

伊東まさ子（教育委員）

市民会館ですが、下関に市民オーケストラというのがありまして、来年で30回目を迎えます。毎年定期演奏会を行い今年5月20日に終わりました。バンドの方の中には南高でオーケストラを経験された方、中等でグラスバンドを経験された方もいます。来年も是非宜しくお願いいたします。市民会館で毎年、小・中学校の音楽祭が開催されます。市内各校の小・中学生が大きな舞台に立って演奏するという素晴らしい機会を得、また同年代の生徒が客席で聞くという取組みを私もゲストとして何回か参加させていただきました。ずっと続けて欲しいと思います。それと4ページにあります21回のフリーコンサート。これも数年前に市民オーケストラも参加しましたが、著名なアーティストと小中学生が合唱や吹奏楽と一緒に共演するというとても貴重な機会を得ました。

先程話がありましたが、心の劇場「劇団四季ミュージカル」。ミュージカルというのは総合舞台芸術なので、とても経費が掛かりますが、その分豪華な舞台と感動を与えてくれる素晴らしいステージを6年生が体験できるという事はとても恵まれていると思います。私も取組みを応援していきたいと思います。

前田晋太郎（市長）

有難うございました。教育長どうでしょうか。

児玉典彦（教育長）

様々な取組みをやっていただいて、教育委員会としても教育長としてもとてもありがたいなと思います。が、その事が繋がらないので、大きな効果を発揮ではないのではないかと感じる事がしばしばあります。何かイベントをやる、情報を発信する時に何のためにこの情報を発信するのか、そこを十分意識して言葉や題材を選んでもらいたいと思います。子供たちに情報を発信する事で、ふるさとを誇りに思う気持ちが育ち、下関を支えて行こう、下関に住み続けようという気持ちが育つように、その事を意識した取組みであって欲しいと思います。

前田晋太郎（市長）

今回、芸術・文化という言葉が前に出ていますが、要は子供たちの感性をどう育てるかという事。教科書には載っていない空気の変化や自然の美しさを見て感動するという感性を育てる事が大切だと思います。都会も良いけど田舎も良いという心を育てていく事が、愛情や健全で豊かな心を養い、それが大人になった時に家族に対する思いやりになっていくと思います。そこを育てていくのが芸術や文化だと思います。最近のゲームづけになっている子供を見て、体力も集中力

も三昧になっているので大丈夫かなと思います。そういう意味ではもう少し身体を鍛えて外に出るような環境づくりに行政としても取組んでいかなければいけないと思います。

いろいろな良い取組みがありますが、教育長が言われたようにしっかりと目的意識を持った取組みで、繋がりや明確なゴールを目指していくという事が大事であると思います。

時間が迫ってまいりましたのでここで先程言いました「明治維新150年の取組み」と「芸術・文化・スポーツに触れる機会の創出について」という項目についてはここで一旦締めさせていただきます。教育委員会と市長部局が連携をとって、これからの子供たちの為に尽力いただきたいと思ひますし、教育委員の皆様にも引き続きご指導いただければと思ひます。

協議・調整事項は以上です。続いて「その他」に移ります。この場で述べておきたい事や、感想などがございましたらお願いいたします。

私から一言提案申し上げます。本日の議題の中にはなかったのですが、これから大きく下関の教育を考えていく上で、時代の流れが非常に早く、これから少子高齢化の進む中、社会保障を考える上で税金・介護保険料が上がり社会関係がどう大変になるか解らないけど、子供たちには強く生き抜く力を持ってもらいたい。そのための教育を下関としてはしっかりとやって行かなければいけないというのが大きなテーマになるのではないかなと私は考えています。一方で学校の現場を見ると親御さんから厳しい意見がありますね。モンスターペアレントという言葉もありますが、先生方にはのびのびと子供たちを育て、時には叱るという状況も作ってもいいと思ひますし、親と学校の教師との信頼関係を作って行かなければいけないと思ひます。あえて厳しい環境にでも応じていけるように、子供たちを強く育て、生き抜く力をつける為にはどうすればいいか、次の会議には議題として出していきたいと思ひます。その前触れというわけではありませんが、委員の皆様にはお知りおきいただき、急ではありますが何か意見がありましたらお願いいたします。

児玉典彦（教育長）

生き抜く力というのは、社会の影響に合わせて自分を変えていく力です。変える為には学ばなければならない。すなわち生きる力は変わる力で、変わる力は学ぶ力です。学ぶ力を身につける為にはどうすればいいか。学び方も大切ですが、学ぶのが好きになるというのが一番大事です。では子供たちが学びを好きになる為にはどうしたらいいか。それは教師自身が学びを好きになる事です。でも今は学びが好きになる様な余裕がない。私は教師になった時に自分の使命は何かを考えた時、学校の教師がゆとりや威信を持ってのびのびと仕事が出来るようにしたら、教師がそうなれば子供に学ぶ力ができ、学びが好きになっていくだろうという信念を持つことだと思ひました。そうするにはどうすればいいか。学校の教育を皆さんと一緒に考えていけたらと思ひますし、市長にはそのあたりを理解、協力いただけたらと思ひます。

【市長挨拶】

前田晋太郎（市長）

時間となりましたので、平成30年度第1回下関市総合教育会議を以上にさせていただきます。これからも市長部局と教育委員会がしっかりと手を携えて、また教育委員の方のアドバイスや指導をいただきながら下関の教育の発展に努めていきたいと思ひています。どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは事務局にマイクをお渡しします。

【閉会の宣告】

萬松佳行（教育部長）

皆さん大変お疲れ様でした。以上を持ちまして、平成30年度第1回下関市総合教育会議を終了いたします。

